

平成27年度 当初予算案



50万人都市・江東

魅力発信予算

平成27年度の江東区当初予算案は、一般会計で1,767億6,900万円と前年度に比べ1.4%増となりました。また、一般会計と特別会計(国民健康保険会計、介護保険会計、後期高齢者医療会計)を合わせた予算総額は、前年度比4.9%増の2,782億6,500万円となっています。平成27年度当初予算は、2月19日から始まった平成27年第1回区議会定例会の審議を経て、決定します(2面に主な事業)。

50万人都市としての第一歩

▲新たに長期計画(後期)を策定し、その第一歩を大きく踏み出します

まもなく人口50万人となり飛躍を続ける本区が、今後、オリンピック・パラリンピック開催、新市場開場、地下鉄8号線延伸などを控え、区外、世界へもさらに魅力を発信していく予算として編成しました。

平成27年度予算の特徴

平成27年度は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた取り組みとして、競技会場周辺道路の無電柱化事業をはじめ、パラリンピックカヌー選手輩出に向けた選手育成や、江東区の魅力を区外、世界に積極的に発信していくためのブランディング戦略の検討などを行います。新たに「江東区東京オリンピック・パラリンピック基金」を創設し、区として実施する関連事業の財源を確保するとともに、財政の透明性を高めるため、収支の明確化を図ります。



▲江東区長 山崎孝明

長期計画(後期)の第一歩 区民が世界に誇れる江東区に

本区は、人口急増を続けてきましたが、いよいよ50万人を突破します。また、5年後の東京オリンピック・パラリンピックでは、多数の競技が区内で実施され、来年には豊洲新市場が開場するなど、本区をめぐる環境

は大きく変化します。こうした転換期にある本区では、さまざまな行政課題に的確にこたえるべく、新たに長期計画の後期5か年計画を策定し、平成27年度はその第一歩となる年です。

他にも区政各般にわたり積極果敢な施策を展開するため、効果的・効率的な行政運営に取り組む覚悟です。

予算編成にあたっては、財政環境の厳しさを認識しつつ、9月にオープン予定の豊洲シビックセンター整備関連事業等、長期計画(後期)の着実な実施を図ります。また、認可保育所等を整備し、1,000人程度の定員を新たに確保します。学校の収容対策では、人口が急増する南部地域に、地域開放型の区内45校目の小学校、豊洲西小学校を4月に開校します。さらに

(仮称)第二有明小・中学校を新設するための実施設計と、区内4つの小学校で校舎の増築を行うなど、区民の皆さんが安全・安心そして快適に生活できる、本区の魅力を十分に引き出した予算案となりました。

本区は人口の増加も続き、さらなる発展を遂げる、他に類を見ない元気にあふれた自治体です。私は50万江東区民が世界に誇れる江東区であるために、オリンピック・パラリンピック成功への準備はもちろん、その後取り組んでまいります。

また、平成27年度は「江東区長期計画(後期)」のスタートの年度であることから、主要事業の着実な推進に向け、予算を計上しています。引き続き、待

区分	平成27年度	平成26年度	増減率
一般会計	1,767億6,900万円	1,743億1,900万円	1.4%増
国民健康保険会計	633億600万円	539億4,600万円	17.4%増
介護保険会計	300億6,300万円	293億4,700万円	2.4%増
後期高齢者医療会計	81億2,700万円	77億8,100万円	4.4%増
計	2,782億6,500万円	2,653億9,300万円	4.9%増

行財政改革の推進

平成27年度当初予算では特別区税が増収となりますが、地方交付金への影響など、中・長期的な視点から先行きを楽観視できる状況ではありません。区では、行財政改革の着実な推進として職員定員の適正化、区民税等の滞納対策の強化など歳入の確保に努めるとともに、事業の見直しや再構築、全事業の総点検により、将来に向け安定的かつ継続的な区民サービスを提供できる財政基盤の確立に努めていきます。

区財政課予算担当

☎(3647)1760